

令和5年度

学校評価総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎進路指導課

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		学校関係者の意見	
		評価指標	評価	学校関係者の意見	
自主的・主体的に学習に取り組み、自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。	1) 主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人一人が自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。 2) 生徒の能力、適性に応じた進路実現を図るため、きめ細かな進路指導を体系的に行う。	<p>1) ① 年次集会や講演会などにおいて、活動記録ノートを活用する。</p> <p>② オープンキャンパスの積極的な参加を促進する。</p> <p>③ 自習室を積極的に活用する。</p> <p>④ 授業動画等を積極的に活用する。</p> <p>⑤ 進路相談室（進路室隣）を面接等に利用し有効に活用する。</p>	<p>1) ① 年次集会や講演会等の記録に活動記録ノートの活用を促した。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパス・体験入学に関する情報を随時提供し、タイムリーな情報が行き渡るように掲示物等に配慮した。集会では、進路を考える上で情報を入手することと、自分から進んで行動することの重要性を伝えた。今年度のオープンキャンパス参加者は、のべ135名であった。</p> <p>③ 自習室だけでなく、2階東渡り廊下に設置してある学習スペースも多くの者が活用していた。</p> <p>④ 課題配信に対する反応は良いが、自ら動画を活用することは一部の者に留まっている。</p> <p>⑤ 二者面談や面接練習、個別指導等さまざまな用途で活用することができた。</p>	<p>(評定)</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>(所見)</p> <p>今年度のオープンキャンパスについては、現地でのオープンキャンパスに参加する者が多数おり、自分の将来をみつめる良い機会となった。</p> <p>生徒・保護者対象の進路講演会においては、講演の目的を明確にして講演内容を吟味した上で実施できたことで、生徒・教員ともに満足度は高かった。進路情報誌『道』の合格体験記は後輩の良き参考資料となっている。</p> <p>補習、スタディサプリ、Classiがあり、生徒が学習するにあたり、それらをうまく活用しきれていないように思われる。活用方法の模索が必要だと思われる。</p>	<p>○ オープンキャンパスの参加（1年:31人、2年:86人、3年:18人）については、1年次の参加がやや少なかった。オープンキャンパスに参加する理由を丁寧に説明するとともに、積極的に案内（個々への声かけ）をすることにより、今年度より多くの生徒が参加するよう促す。</p> <p>○ 来年度の大学入試から教科「情報」が加わることより、その対策としてスタディサプリを活用する。その活用の仕方を、他教科での活用方法の参考とする。</p>
		<p>2) ① 個人面談、各年次部会、三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。3年次担任会を毎週火曜日に開催し、情報の共有を図る。</p> <p>② 進路情報誌『道』を発行し、ホームルーム活動で活用する。</p> <p>③ 生徒対象と保護者対象の二部に分けて各年次で進路講演会を実施する。</p> <p>④ 長期休業中（1・2年次全員）、早朝補習と8限目補習、大学入学共通テスト後に国公立大学の二次対策補習・私立大学一般入試対策補習を希望者対象に実施する。（3年次）</p> <p>⑤ 3年次生の進路（志望校等）の分析を目的とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。</p>	<p>2) ① 保護者には積極的に進路情報誌を提供した。また、ホームルームや教職員個人用に、入試や進路に関する情報誌を適宜提供した。3年次の担任会を毎週火曜日に実施し、生徒の進路実現に向けての情報を共有することができた。</p> <p>② 7月に『道』を発行した。7月に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設して実施した。進路ホームルーム活動の生徒の満足度は91%（90%）、教職員は95%（96%）と高い。（ ）は昨年度。</p> <p>③ 5月に3年次の保護者対象進路説明会を実施し、6月に3年次の生徒を対象に河合塾の武村健太氏を招いて進路講演会を実施した。9月に1年次の生徒・保護者を対象にベネッセの高木悠汰氏を、2年次の生徒・保護者を対象に近畿大学入学センター高大連携課の屋木清孝氏を招いて進路講演会を実施した。進路講演会は生徒88%（90%）、保護者95%（90%）と高い満足度を示した。（ ）は昨年度。</p> <p>④ 1・2年次の長期休業中補習については、英数国の3教科で夏季10日、冬季3日実施した。3年次の補習については、長期休業中補習夏季20日、冬季5日、早朝補習45日、8限目補習35日、二次私大対策補習20日等を生徒の進学先に応じて実施した。</p> <p>⑤ 進路対策委員会は各回の目的に応じて年間3回開催した。2年次生も実施した。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>1) ① 年次集会や講演会等さまざまな場面で日々の記録に活動記録ノートを活用させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 年次集会や講演会等の記録に活動記録ノートを活用させた。</p>		

	<p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。自分から進んで活動することを促し、自らの進路や将来をしっかり考えさせる。</p> <p>③ 社会科教室（多目的室）等の自習室を積極的に活用させる。</p> <p>④ 各自の学習において、スタディサプリやClassi等を積極的に活用させる。</p> <p>⑤ 進路相談室（進路室隣）を進路指導課に関わる活動に限らず、部活動や各小規模な説明会等に活用してもらえるように学校全体に働きかける。</p>	<p>② 夏季休業中のオープンキャンパス・体験入学に関する情報を随時提供し、タイムリーな情報が行き渡るように掲示物等に配慮した。</p> <p>③ 多くの生徒が自習室を活用した。</p> <p>④ 教科の課題等を配信することにより、生徒の学習時間を確保することができた。</p> <p>⑤ 用途を限定することなく活用してもらえよう案内した結果、二者面談や面接練習、個別指導等さまざまな用途で利用してもらうことができた。</p>		
	<p>2) ① 良質な内容の進学情報誌等を選択し、生徒・保護者に提供する。</p> <p>② 進路情報誌『道』を作成し、『道』を使った特設ホームルーム活動では担任から進路設計の指導を行い、先輩の軌跡から学ばせる。</p> <p>③ 生徒対象と保護者対象の2部に分けて各年次で進路講演会を実施する。</p> <p>④ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を実施する。3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。早朝補習は希望制で英数国で2クールに分けて実施する。8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。国公立大学の二次対策補習・私立大学一般入試対策補習では志望校合格を目指す。</p> <p>⑤ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p>	<p>2) ① 1・2年次の保護者には高校のガイダンス本や入試の概要がわかる冊子を、3年次の保護者には入試や進路の詳しい情報冊子を配布した。</p> <p>② 7月に『道』を発行した。7月に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設して実施した。</p> <p>③ 5月に3年次保護者対象進路説明会、6月に3年次生徒対象進路講演会、9月に1・2年次の生徒・保護者を対象に進路講演会を実施した。</p> <p>④ 1・2年次の長期休業中補習については、夏季と冬季で実施した。3年次の補習については、長期休業中補習については、夏季と冬季で実施し、早朝補習、8限目補習、二次私大対策補習を実施した。</p> <p>⑤ 7月に進路志望先検討会、12月に進路志望先研究会、1月に大学入学共通テスト後の出願検討会として年間3回実施した。その他推薦に関する選考会などは複数回実施した。模擬試験の集計結果を用いて進路対策委員会に必要な資料を作成するとともに、大学入学共通テスト後の担任作成資料は担任の負担が減少するよう内容を改善している。</p>		

◎教務課

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
確かな学力を身につけさせる。	1) 進学型単位制の特長を生かした魅力ある教育課程を編成する。 2) 教科指導方法を工夫改善し、分かる授業、学力のつく授業を実践する。	<p>評価指標</p> <p>1) ① 新教育課程実施にあたり、教育課程検討委員会を2回以上実施する。</p> <p>② 学校開放を積極的にすすめる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1) ① 教育課程検討委員会を2回実施し、生徒の実態に合わせた教育課程の編成に努めた。</p> <p>② 中学生体験入学を8月に実施した。学校公開を11月の平日5日間行うなど積極的に学校開放をすすめた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<p>○ 他県のSSH校の教育課程を研究し、よりよい教育課程の編成に向けて改良を重ねる。</p> <p>○ 学校開放に関してはアンケートや近隣中学校からの評価をもとに、よりよい実施期間や方法について検討を重ねる。</p> <p>○ 授業力向上研修等を通じて教員の授業力向上を図るとともに、求める学力について生徒との共通認識を図るようにする。</p>
		<p>2) ① 授業評価を年2回実施し、2回目の肯定的な評価を向上させるとともに、90%以上とする。</p> <p>② 出張・年休の振替を積極的にすすめる。</p>	<p>2) ① 7月と12月に実施した。12月は94%の生徒が、授業が「わかりやすい」「どちらかといえばわかりやすい」と肯定的に評価した。</p> <p>② 教員の新型コロナウイルス感染等の突発的な事態に対し、自習対応が多くなった。</p>		

		活動計画 1) ① 教育課程検討委員会を2回以上実施し、観点別評価や魅力ある教育課程実現に向けて議論をすすめる。 ② オープンスクール（学校公開・中学生体験入学）を年間2日以上設定する。 2) ① 授業評価を6月と11月の年2回実施する。集計はICTを活用し、省力化を図る。 ② 出張・年休の振替率を80%以上にする。	活動計画の実施状況 1) ① 教育課程検討委員会を2回実施し、生徒の実態に合わせた教育課程の編成に努めた。また、教育課程に肯定的な評価をしている保護者は91%、生徒は89%であった。 ② 中学生体験入学を8月25日に実施。学校公開を11月6日から10日までの平日5日間行い、最終日は部活動公開を実施した。 2) ① 7月と12月に実施した。12月は94%の生徒が授業を肯定的に評価し、7月実施の93%より1%向上した。ICTを利用して分析作業を課員で分担することでさらに省力化につなげた。 ② 教員の新型コロナウイルス感染等で自習対応が多くなり、振替率は93%となった。	(所見) 教育課程を検討し、生徒の実態に合わせた教育課程の編成に努めた。他の校務分掌、各年次との連携を図り、スムーズな学校運営や学校開放の実施につなげた。 また、ICTを積極的に利用し、課員の負担軽減と業務改善を進めた。		
--	--	--	--	--	--	--

◎SSH課

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
科学的探究活動から地域社会をイノベーションする人財育成に資するカリキュラムの開発に努める。	1) SS・SAや自然科学部活動の充実を図り、生徒のプレゼンテーション力や高度な思考力の育成を図る。 2) 各教科・科目においてアクティブラーニングやICTの活用により、本校SSHの3本柱を育むための授業改善に努める。	評価指標 1) ① SS・SAでの課題研究の深化のため、構想発表会・中間発表会・最終発表会等を行う。自然科学部部の活動を校外において公開する。 ② 理数科生徒による小学生対象の出前授業を開催し、プレゼンテーション能力を育む。 ③ 大学・企業・専門機関等との連携を密にして、高大連携事業や、スペシャリストアカデミー・トップリーダーセミナーを開催する。 2) ① アクティブラーニング型授業やICTを活用した授業を行い、本校SSHの3本柱を育てる。 ② 職員研修や公開授業をとおり、本校SSHの3本柱を育てるための授業改善を図る。	評価指標の達成度 1) ① SS・SAともに予定通り発表会を実施した。自然科学部においては、科学コンテストに研究論文を出品し、四国金属学会でポスター発表を行った。 ② 授業者は、科学的な知識を小学生にわかりやすく伝えることができ、プレゼンテーション能力を向上させた。 ③ 高大連携事業は、県内大学6回、スペシャリストアカデミーは2回、トップリーダーセミナー2回15講座を実施した。 2) ① 授業者は、本校SSH指針の3本柱を意識してアクティブラーニング型授業やICTを積極的に活用した授業を指導案等で計画し、実行できた。 ② 公開授業後研修を行い授業改善の手法について知識を共有し、適宜共通理解を図ることができた。	○本校のOBで活躍している人は大勢いるので、SSHでその人材を活用していくとよい。 ○課題研究の質を高め、様々なコンテストにおいて受賞者を増加させるための方策として、卒業生や、現役大学生・大学院生によるTAネットワークの構築及び、地元の中学生・小学生を対象とした生徒による実験教室を充実させ、科学教育の拠点校としての取組を充実させる。 ○授業改善においては、STEAM教育の視点を取り入れ、全教科が教科横断的な授業を展開し、コンピテンシーの共有を図れるよう教員間のコミュニケーションを密にし、研修を充実させる。	
		活動計画 1) ① 課題研究に関する年間指導計画を確立させ、校内発表会において研究の深化を図り、校外の発表会への参加や、科学コンテスト等に研究論文等を出品する。 ② 理数科2年次生による小学生対象出前授業を、7月と9月に実施する。 ③ 課題研究のテーマや研究内容に関わる領域の講師を招いて、ワークショップを取り入れた特別講義やスペシャリストアカデミーやトップリーダーセミナーを実施する。 2) ① 授業改善等について検討する各教科代表者からなる組織を立ち上げ、検討・実践を進める。 ② 関係各課・科と連携して、2学期または3学期に公開授業を実施し、生徒の変容を検証する。	活動計画の実施状況 1) ① 理数科1年次生において、徳島大学や城南高校と連携し、課題研究の指導計画を検討し、テーマ決めの手法を確立した。研究成果を科学コンテスト等に計画通り出品し、第80回科学作品展で特選を受賞した。 ② 理数科2年次生による小学生対象出前授業を、7月には実施したが、9月は実施できなかった。 ③ 実施した特別講義等については、生徒の課題研究のテーマに関連したものを中心に実施した。 2) ① 授業改善プロジェクトチームによる、授業改善のための職員研修を実施した。公開授業月間を企画し、授業改善を推進した。 ② 3学期に公開授業を実施した。自己評価によると、科学的な思考力・探究力の向上を認識している生徒は81%であり、SSHの取組が効果を上げているといえる。		

◎国際課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
グローバルな視点で地域に貢献する人材を育成する。	1) コミュニケーション能力を伸ばし、国際社会の中で主体的に生きる力を育成する。 2) 望ましい職業観、勤労観または、人生観を育成し、地域をイノベーションするグローバルな視点を養う。	評価指標 1) 台湾の国立新化高級中學と姉妹校締結をし、台湾をはじめ諸外国の人々との交流を進める。 2) 主体的に課題研究に取り組む姿勢を身につけさせる。	評価指標の達成度 1) 台湾の国立新化高級中學と姉妹校締結をし、相互訪問をすることができた。台湾以外にもアメリカ、マレーシア、カナダの人々と交流することができた。 2) 1・2年次ともにグループによる課題研究に取り組んだので、個別の研究よりも広い視野で研究できた。一方、インターネット上の情報を中心とした研究がほとんどだったのが今後の課題である。	総合評価 (評定) A (所見) 今年度、台湾の国立新化高級中學と姉妹校締結をすることができた。久しぶりに相互訪問ができ対面での交流の教育的効果がいかに大きいかを実感した。課題研究については、準備期間を長くし、要所所で必要な支援をし、生徒自身が振り返りながら研究を進めていく体制を取りたい。	○台湾交流などの経験が生徒の成長につながっている。この体験をぜひほかの生徒たちにも伝えてほしい。 ○台湾研修を中心とした国際交流を充実させ、できるだけ多くの生徒が関われるようにしたい。また、交流内容を積極的に校外へ発信したい。 ○調べ学習の域を越える探究活動ができるように工夫したい。特に、1年次は大きくやり方を変えたい。
		活動計画 1) ① 海外研修参加者の事前学習を5回以上実施する。 ② 1・2年次生を対象に、台湾を中心とした国際理解教育の授業や活動を3回以上実施する。 ③ 台湾以外の外国人との交流を3回以上実施する。 2) ① インターネット上の情報だけではなく、実践的な探究活動ができるように支援する。 ② 探究活動の内容を各種コンテストに応募する機会を3回以上設ける。	活動計画の実施状況 1) ① 事前学習として国立新化高級中學とオンライン交流を5回、ペンパル交流を2回実施した。 ② 台湾出身の社会人講師による台湾についての講演会を1回実施した。中国人講師による中国語の授業を各クラス2回ずつ実施した。新化高級中學生が来校した際には、交流活動や授業を展開した。 ③ アメリカ人高校生が1ヶ月間、授業体験をした。マレーシアの高校生とオンライン交流を1回実施した。カナダ人の高校生が来校し、部活動を体験した。 2) ① 7月に阿南市役所訪問を企画し、市役所の各部署の方に課題研究に関する質問をし答えてもらった。また、校内でアンケートを実施したり、関係機関にインタビューをしたりして、その結果を課題研究に活かしたグループもあった。 ② 2年次の課題研究グループがアップデートコンテストに応募した。そのうち1つのグループが第一次選考を通過し、最終審査会に出場した。		

◎特別活動課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
さまざまな行事や活動において、自主的・主体的に計画し実践できる生徒を育成する。	1) 部活動、生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ、主体性や協働の精神、愛校心を育てる。 2) 学校行事や部活動等とおして、調和のとれた人間性の育成を図る。	評価指標 1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する) ② 各種委員会を少なくとも年間2回以上実施し、委員会ごとでの生徒の積極的な活動を促す。 ③ 年間を通し、あいさつ運動を実施する。	評価指標の達成度 1) ① 部活動主将・部長会議を2回実施した。会議でそれぞれの部の活動状況について確認することで、学習とのバランスを考え、めりはりのある練習を心がけることができた。 ② 各委員会ごとに新しい生活様式に合わせて活動計画を実施できた。 ③ 各部、年1回の活動に取り組み、生徒会役員は毎学期に1回ずつ取り組んだ。	総合評価 (評定) A (所見) 部活動においては学習時間の確保を意識した活動がもっと定着できるようにしたい。 新型コロナウイルスのみならずインフルエンザの流行で実施計画を一部変更したが、柔軟に対応できた。	○制服について、生徒から意見が出てきたのはよい。生徒の声を大切にして進めてほしい。 ○生徒が主体となってカジュアルリーダーなどの新しい提案がなされるのはよいことである。 ○しっかりと時間をかけて新制服への取組を実践していく。
		2) ① 学校祭をはじめとする学校行事の満足度を80%以上とする。 ② 部活動への入部率を80%以上とする。	2) ① 4年ぶりに一般公開を実施し、生徒・保護者とも80%以上の満足を得ることができた。 ② 生徒会が部活動紹介を工夫して行い、新入生の80%を超える生徒の加入を実現することができた。		

		活動計画 1) ① 部活動主将・部長会議を4月と10月に実施する。また、必要に応じて開催する。 ② 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。 ③ 年間を通し、生徒会や部活動生徒により校門前であいさつ運動を20分間実施する。雨天時は昇降口で行う。	活動計画の実施状況 1) ① 会議をととして、部長がすべての責任を負うのではなく、チーム全体で協力しながら活動するという意識を浸透させることができた。 ② 学校生活における改善点を見つけて、話し合いをすることができた。 ③ 当番を決め、毎週各部が活動に参加した。	チーム力向上のためにもリーダーがすべてを負担するのではなく、各役員が考え行動することで人間力の成長につなげたい。 生徒総会での議題内容や発表に関する充実した活動ができた。		
		2) ① 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。 ② 部活動紹介を実施し、4月と2月で入部率を調査・把握することで、入部を促進する。	2) ① Classiを活用して生徒会からのアンケート等を実施し、その結果を生徒会・教員で共有し検証した。 ② 登壇する人数制限をなくしたことで、各部が創意工夫を凝らした部活動紹介を行い、新入生の部活動への関心を高めることができた。	アンケートの回答率の向上を意識する。		

◎生徒指導課

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
生活指導の充実を図る。	1) 基本的な生活習慣の育成に努める。 2) 規範意識や交通安全に対する意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。	評価指標 1) ① 全校集会や年次集会時に生活指導を実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 5分前登校を励行し、余裕を持った通学を実践させる。	評価指標の達成度 1) ① 実施のできた年次集会では頭髪・服装検査を行い、基本的な生活習慣の定着を啓発した。 ② ほとんどの生徒が余裕を持って登校できているが、いつも決まった生徒が時間ギリギリに急いで登校する様子が見られた。	総合評価 (評定) B 全校集会はあまり実施できなかったが、年次集会では日常生活に関する注意喚起ができた。体調不良等で、遅刻者は微増した。 自転車による交通事故が依然として多い傾向にある。安全で安心できる学校生活並びに登下校ができるよう交通マナーやルールの遵守について指導をしていきたい。 またヘルメットの着用についても喚起する。 事故や問題行動に対しては教職員の協力体制により、管理職や関係教員・関係機関と連携を図り、迅速に対応できた。さらに積極的な生徒指導を心がける。	○ 多遅刻生徒の減少に取り組み、登校時に余裕を持って行動できるように指導する。 ○ 関係機関と連携し交通安全教育を推進し交通事故の減少に努める。通学指導・駐輪指導を継続的に実施する。
		活動計画 1) ① 全校集会で生活指導を実施する。 ② 教員による登校指導を実施し、通学の安全を図る。	活動計画の実施状況 1) ① 集会での生徒への啓発、防止指導を行った。他の課等との連携を徐々に深めることができた。 ② 毎朝担当教員が立哨指導をし、声かけをすることで交通安全を喚起し、生徒がしっかりと挨拶できるようになった。		
		2) ① 携帯電話の適切な使用や薬物乱用防止に関する意識を高める。 ② 交通マナーアップ講話の実施と交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内)	2) ① 1年次を対象に携帯電話安全教室、薬物乱用防止教室を実施した。 ② 重大事故は発生しなかったが、主に自転車接触等の事故は12件発生した。昨年度16件から減少した。		
		2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 全校生徒および教職員を対象に交通マナーアップ講話を実施する。	2) ① 1年次を対象に携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を実施した。 ② 生徒会・全部活動が輪番で交通マナーアップ活動(あいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ)を実施した。		

◎教育相談課

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
教育相談の充実を図る。	1) 教育相談を組織的に行うための校内体制を整備し、教育相談に対する教員の意識を高める。 2) 特別な支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラーの協力を得て、特別支援教育コーディネーターを中心とする学校組織全体としての対応を図る。	評価指標 1) ① 相談室を必要に応じて開放する。 ② 教育相談研修会を年間4回実施する。	評価指標の達成度 1) ① 相談室を継続使用する生徒はいなかったが、状況に応じて開放できた。 ② 1学期1回、2学期2回、3学期1回の計4回実施した。	総合評価 (評定) A (所見) 教職員一人一人が高い意識を持って教育相談に取り組むことができた。次年度も教職員の教育相談に関する知識やスキルをさらに向上させ、よりきめ細かく生徒理解に努める必要がある。	○ スクールカウンセラーの常駐が望ましい。
		2) スクールカウンセラーによるカウンセリングについて、教員・生徒・保護者に適切に周知し、効果的に活用することで生徒理解や支援につなげる。	2) 組織的かつ計画的な実施により、カウンセリングを効果的に活用し、生徒理解や支援につなげることができた。		
		活動計画 1) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも相談室を活用して相談にのる態勢であることを知らせる。 ② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。 2) スクールカウンセラーと協力し、年108時間のカウンセリングの時間を適切に教員や生徒・保護者に連絡し、計画的に実施する。	活動計画の実施状況 1) ① 相談室ではスクールカウンセラーによって20名の生徒、5名の保護者との面談が実施された。 ② 年間4回の研修会の他に、個別の相談会を実施した。 2) 行事予定表への記載や口頭での案内のほか、本校のホームページやClassiを通じて周知し、計画通りに実施した。		

◎人権教育課

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
豊かな人間性と社会性の涵養を図る。	1) 人権に対する感性を磨き、自他の生命の尊さを認識し、多様性を認め、相手の立場に立って主体的に行動することができる人づくりを推進する。 2) 人権問題に積極的に取り組む態度の育成を図る。	評価指標 1) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。人権教育をととして、生徒の人権意識の高揚を図る。 ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ) ③ 「富西人権の日」を月に1回実施する。	評価指標の達成度 1) ① 6回のホームルーム活動を実施した。生徒の87.8%が「学校は人権学習ホームルーム活動を通じて人権意識の高揚に努めている」と回答した。 ② 4回の事前研修会を実施した。 ③ 「富西人権の日」を月に1回実施した。	総合評価 (評定) A (所見) 6回の人権ホームルーム活動により、個別人権課題について学習できた。月に1回の「富西人権の日」と人権に関する作品づくりが人権について考えるよい機会になった。人権委員が「身元調査お断り」ワッペン運動に参加し、35年続いている啓発活動を行うことができた。	○ 社会問題研究部の部員を増やす。活動内容について周知し、校内の人権啓発の中心となっていける生徒を育てる。
		2) ① 人権に関する感想文や作文を書かせたり、標語・ポスター・作詞作曲・書道などの作品制作に取り組んだりさせる。 ② 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	2) ① 人権に関する標語は、全校生徒が取り組んだ。作文は、1・2年次生が取り組んだ。ポスターは美術選択者、書道は書道部員が取り組んだ。 ② 人権委員が「身元調査お断り」ワッペン運動に参加した。社会問題研究部の部員数は0である。		
		活動計画 1) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施し、相手の立場に立って主体的に行動できる生徒を育成する。 ② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。	活動計画の実施状況 1) ① 6回のホームルーム活動を通じて、人権意識の高揚に努めた。 ② 4回の事前研修会を実施したことにより、人権学習ホームルーム活動の充実につながった。		

	③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。	③ 計画通り実施した。多様な行事を盛り込むことで、人権意識の高揚に努めた。		
	2) ① 人権に関する感想文や作文を書かせたり、標語・ポスター・作詞作曲・書道などの作品制作に取り組んだりさせる。 ② 人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。	2) ① 作品づくりをとおして、人権問題を自己の問題として考える契機とすることができた。「あいぼーと」の人権に関する作品には3作品、阿南市人権啓発作品にも3作品入賞した。 ② 人権ホームルームの際に、人権委員が報告書を作成し、それをもとに、啓発紙「じんけん富西」を発行した。		

◎環境防災課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の担い手を育てる。 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	1) 環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の担い手を育てる。 2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	評価指標 1) 教室における不在時の消灯などによる節電や節水を徹底する。	評価指標の達成度 1) 節電・節水の取組ができていると考えている生徒は84%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 環境保全および防災に対する意識の向上を目指して、より一層徹底が必要である。	○ 地球温暖化等私たちを取り巻く環境問題について、委員だけでなく全校あがりの意識改革が必要である。 ○ 南海トラフ地震や新型コロナウイルス感染症対策など常にアップデートして柔軟に対応できる実践力を身につけさせる。
		2) ① 年間5日以上、防災クラブの活動を行う。 ② 防災士の受講生徒を増加させる。	2) ① 消火器設置場所の確認や備蓄品の確認・運搬を行った。富岡六町地区自主防災会と連携した防災避難訓練や防災研修会を行い、防災のための知識と技能を身につけた。 ② 今年度は、各校2名以内という制限があったため、希望者全員が受講することができなかった。日程変更などもあり、実際に講座を受講し、防災士の資格を取得したのは1名にとどまった。		
		活動計画 1) 環境委員が節電・節水を呼びかける。 2) ① 防災クラブを中心に避難所運営ゲーム(HUG)を実施することによって、高校生が避難所運営に携われるようにする。 ② 防災士育成講座の案内を行い、受講生への指導を行う。	活動計画の実施状況 1) 新型コロナウイルスおよびインフルエンザ等、感染症予防のために手洗い励行、換気を行うとともに、節電・節水の呼びかけも適宜行うことができた。 2) ① 予定を変更し、防災に対する知識を深めるため、富岡六町地区自主防災会と連携した防災避難訓練や防災研修会を行った。 ② 全校生徒に講座の案内をした。受講の決まった生徒に対しては、テキストを渡し資格取得に向けた学習に取り組むよう促した。		

◎総務課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
<p>読書活動の推進をおし、豊かな人間性と社会性を育む。</p> <p>生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>1) 学校図書館の利用をとおして、読書に親しむ態度や、知的好奇心を刺激することで、物事の本質を探究しようとする態度を育む。</p> <p>2) P T A 役員会や牛岐同窓会等で積極的な意見交換を行うなど、地域社会との連携を図る。</p>	<p>1) 学校図書館の利用について、一人あたりの利用回数は年間10回、貸出冊数は3冊以上を目標とする。</p>	<p>1) 一人あたりの利用回数は14回で、目標を達成した。一人あたりの貸出冊数は前年度より増加し、2.1冊となった。</p>	<p>(評定)</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p>	<p>○ 学校図書館長寿命化により、安心して利用できる環境が整備された。このことを生徒・教職員に周知・浸透させ図書館活動の活性化を図る方策を引き続き検討したい。</p>
		<p>2) ① P T A 役員会を年4回実施し、意見交換を行う。</p> <p style="text-align: center;">② 牛岐同窓会総会を開催し、昨年度以上の参加者数を目指す。</p>	<p>2) ① 4、5月に予定通りP T A 役員会を実施し各会30名を越える参加者があり、活発に意見交換することができた。第3回役員会は、中心議題であった富西祭P T A バザーが見送られたことで、中止とした。</p> <p>② 総会では、本年度講演会を再開することができた。参加者は昨年度より増加し、約50名であった。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>1) 教員はもちろん、読書会の実施や「Library News」の発行、または学級文庫の設置および利用の呼びかけなど、図書委員による読書活動の推進を図り、学校図書館の積極的な利用を促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) 図書委員は、読書会における本の選定や参加を呼びかける活動、図書館内での推薦図書紹介など、意欲を持って活動できた。「Library News」はClassiで各家庭にも配信し、学校図書館の活用を呼びかけた。</p>		
		<p>2) ① 役員会の開催にあたっては、文書での案内のほかホームページやClassiでの案内を行う。</p> <p style="text-align: center;">② 牛岐同窓会開催にあたっては、文書・新聞広告・ホームページ掲載など広報に努める。また、問い合わせには丁寧に対応する。</p>	<p>2) ① 役員会の開催にあたっては、文書の配付とClassiで参加を呼びかけた。</p> <p>② 総会開催にあたっては、文書・ホームページ掲載など、広報に努めた。また、電話・メールによる問い合わせも増加したが、丁寧に対応することができた。</p>		